



特集

大学教授などの有識者や専門家を講師に迎え
社会人が学ぶ競争のない生涯学習の場を提供
—— ホイスコーレ札幌

Book Stories 本づくりのさきにあること——。

..... キャリア 50 年を超える北海道における装丁家の草分け的存在
【装丁家】須田 照生さん

ほっかいどうの本 『お隣の非正規公務員 地域を変える、北海道から変える』 北海道新聞社
『クリル・フロラダイアリー 千島列島植物探訪記』 亜璃西社
『整形外科医はなぜ野球場を買ったのか』 共同文化社



開講のあいさつに立つ石塚代表

特集

大学教授などの有識者や 専門家を講師に迎え 社会人が学ぶ 競争のない生涯学習の場を提供 ——ホイスコーレ札幌

19世紀のデンマークの農村を中心に発達したフォルケホイスコーレは、勤労者を主な対象にした教育施設で、日本語では「国民高等学校」などと訳されます。フォルケホイスコーレを手本に2008年に発足した年2期制の「ホイスコーレ札幌」は、現在32期目を開講しています。講義のジャンルは、歴史、文学、美術、経済、科学など幅広く、それぞれの分野を専門とする大学教授らを講師に迎える授業のレベルは「小さな大学」と呼ぶにふさわしい充実ぶりです。いくつになっても学びたいと願う社会人に生涯学習の場を提供する、ホイスコーレ札幌の初代代表で現名誉代表の生越玲子さん、2代目代表の石塚耕一さんに設立の経緯や運営の苦勞と喜びなどを聞きました。

(文・写真／片山健一 取材日2025年9月3日)

テストのない 明るく楽しい学びの場

ホイスコーレ札幌の開講時期は春学期（4～7月）と秋学期（9～11月）の年2期制で、約3カ月で12回の講義を行います。毎週水曜日、午前中の2時間余りで講義と質疑応答をしています。受講条件は18歳以上であれば、性別、学歴は不問、試験はありません。営利目的でもないため、受講生は、教室の使用料や講師への謝礼などに充てる受講料を納めれば何期でも受講することができ

ます。

「ホイスコーレ札幌は、受講生の知識欲を満たし、学びによって生活を豊かにすることを目指しています。テストはなく、優劣を決める競争がありません。誰とも競わない明るい雰囲気等特色だと思っています」と生越さんは話します。行政などからの補助はなく、運営費の全てを賄う受講料は、小遣いや年金でも通える程度に設定しているそうです。

多くの受講生が継続し 第32期は40人が受講

2025年9月3日、ホイスコーレ札幌の第32期が開講しました。教室となる札幌市中央区の北海道立道民活動センター「かでる2・7」には、40人の受講生が集まりました。前期より3人増え、初めて受講する2人と受講を再開した1人が加わりました。新規で入る仲間のほとんどは受講生からの紹介です。

開講式の後、美術の教員経験が豊富な石塚さんが、大学教授時代から研究していた「竹久夢二」グラフィックデザインの先駆者」というテーマで講義を行いました。和と洋が絡み合う独特の雰囲気作風で美人画などを描いた竹久夢二の魅力とその生涯を解説し、夢二が作詞し

た『宵待草』が会場に流れると、一人また一人と口ずさみ、やがて合唱となつて教室に響きました。

講義の後には受講生全員の自己紹介がありました。ほとんどが札幌市内在住ですが、北広島市、当別町、留寿都村などからも授業を受けに来ています。「今期は人数も増えてうれしいです」「毎週水曜日が楽しみです、頑張つて80歳までは通いたいと思います」「休講中の3カ月、この日を待ちわびていました」「2年間休んでいて寂しかった。また楽しく

通いたいです」などと、仲間との再会を喜び合いました。

「よくあるカルチャー教室と違い宣伝はしないので、多い時でも2～3人が新たに加わる程度ですが、第1期から継続して通っている方もいて、辞めていく方は非常に少ない」と石塚さんは説明します。

今期は、三浦綾子文学の原点について、令和の米騒動の原因と展望、札幌の地形と植生、音楽による脳のトレーニングなど身近な話題を深掘りしていきます。講義の内容は文



石塚耕一代表



生越玲子名誉代表



生越名誉代表も受講生として学び続けている



ホイスコーレ札幌第1期開講時の記念写真



栗山町で行った研修旅行

学、音楽、美術、まちの歴史・文化を中心に構成し、健康に関する話題も取り入れています。研究者による授業でも難解になりすぎず、楽しみながら学べるようなテーマを選定しているそうです。

多彩な講義のほか、課外研修としてフィールドワークも行っています。今年7月には栗山町での研修を



今期の目標を発表する受講生

実施し、開拓記念館や小林酒造などを見学する日帰り旅行を通じて、受講生同士の親睦も深めました。2026年3月には、2021年に企画しながら新型コロナウイルス禍で中止となっていたオーストラリア研修を催行し、シドニー・オペラハウス、ニューサウスウェールズ州立美術館などを見学します。受講生の子や孫も合わせ28人が参加する予定です。

熱心な受講生と 緻密な運営

「毎日を楽しく、笑顔に満ちた人生を送ってほしい。ホイスコーレ札



学ぶ喜びを語る受講生

幌がその一助になれば」と話す石塚さんは、道立高校などで美術教諭として勤め、おといねっぶ美術工芸高校、松前高校、釧路明輝^{くしろめいき}高校の校長を歴任した後、東海大学のデザイン文化学科教授に就任しました。ホイスコーレ札幌では2019年から代表を務め、2025年3月に大学を退職した後は、ホイスコーレ札幌の活動に専念しています。

大学教授を退職した後は、個展のための作品作りに没頭しようと考えていた石塚さんでしたが、2014年の第12期にホイスコーレ札幌の講師に招かれ、教壇に立った時、目をキラキラ輝かせて、集中して耳を傾

け、学ぼうという意識が高い、受講生の姿に感動したそうです。

講師を引き受けた中、「生越代表（当時）の強い意志とひたむきさ、北海道大学教授だったご主人と優秀な娘さんのサポートによって、隙の無い緻密な組織運営をしていました。この素晴らしい組織を、私も経営してみたい」と校長経験者の血が騒いだそうです。

他方、生越さんは「石塚先生は受講生から非常に人気があったので、後を継いでもらうのはこの方しかない」と直感していました」と微笑みます。

デンマーク留学で 学びの場を着想

初代代表の生越さんが、札幌でホイスコーレを始めるきっかけとなったのは、57歳になって大学に入学したことから、デンマークのフォルケホイスコーレへの留学経験でした。

2003年に北海道東海大学（2008年に東海大学と統合）北方圏文化学科に社会人入学して、3年で卒業単位を取得。同大学院へ進んで国際地域学を専攻していた2007年に、デンマークのヘルネス島にあるヘルネスホイスコーレへ

4カ月留学します。

留学のきっかけは、東海大学の難波克彰教授による特別講義で、デンマークのフォルケホイスコーレについて学び、自分の理想とする教育システムが180年前からあったことに感激したためです。

生越さんは「私が大学で学ぼうと思ったように、世の中には旺盛な知識欲を持ち、大学レベルの講義を聴きたい人がたくさんいるのではないか」と考えていました。そうした希望をかなえる「社会人の学びの場」を検討する上で、ヘルネスホイス



教室にはいつも生け花が彩りを添える

コーレでの学びが役に立ちました。

帰国後、「北海道における生涯学習のニーズと現状及び期待される形態―デンマークのヘルネスホイスコーレ留学の成果を踏まえて―」という論文をまとめ、修士号を取得した生越さんは、ホイスコーレ札幌の設立に向けた準備を始めました。

東海大学の 全面協力で発足

デンマークのフォルケホイスコーレには、全寮制の校舎があり、専任講師もいて、国から70%もの補助金を受けて運営されていますが、そのような組織を日本で設立することはほぼ不可能なため、日本に合わせた運営形態を探りました。

生越さんの母校である東海大学の創立者・松前重義は、1934年にデンマークのフォルケホイスコーレを視察後、1936年に東京・武蔵野に望星学塾を開設し、フォルケホイスコーレを模範とした教育を始めました。聖書の研究を中心として、日本や世界の将来を論じ合う、この塾が現在の東海大学のルーツとされています。

ホイスコーレ札幌の創設に当たっても、東海大学の関係者が多数協力しました。生越さんが大学院時代に

師事した川崎一彦教授がホイスコーレ札幌の顧問に就任し、2008年9月2日に開講した第1期の初回講師は西村弘行副学長が担当、学生たちも助手として協力してくれました。最初に受講生を募集する際のチラシも大学事務局に作製してもらいました。その後も「東海大学札幌校の多くの先生に講師を引き受けてもらいました」と生越さんは感謝しています。

多ジャンルにわたる 講師探しに奔走

ホイスコーレ札幌の代表で、大変な仕事のひとつが講師の依頼だそうです。交通費程度の謝礼で、レベルの高い講義を行ってくれる人を探さなければなりません。生越さんは東海大学関係者のほか、夫で大学教授だった先からの紹介、気になる研究者がいれば直接連絡することもあり



多彩な専門家が講義を行う

『ホイスコーレ札幌の軌跡』を発刊

生越さんは今年5月、自らの留学

ました。
石塚さんも、これまでの教員人生で培った人脈を駆使しながら、受講生にとってベストな講師を常に探しているそうです。さらに会報づくり、課外研修の準備なども行うなど仕事量が膨大なため、運営を支える事務局スタッフが欠かせません。生越さんは娘が、石塚さんは妻が事務局の一員に加わり、会計などを手伝ってもらいなど、家族ぐるみで運営を支えています。

経験や研究の成果、ホイスコーレ札幌の設立経緯、活動内容などをまとめた著書『ホイスコーレ札幌の軌跡』を自費出版しました。「夫の勧めで書き始めたのですが、もう二度と書きたくないと思うほど苦労しました。でも、読んでくださった方々には、人生でこれほど褒められたことはないというくらい褒められました」と言います。
若い読者からは「せっかく立ち上げた団体の活動がうまく続けられない」という悩みを打ち明ける手紙が届いたほか、後継者を育てられず10年ほどで組織を解散した経験のある60代の読者には、次の代表へ引き継いだことを絶賛されたそうです。

ホイスコーレ札幌を「つくってくれてありがとう」
ホイスコーレ札幌の受講生にとって、多くの学友と机を並べることは社会参加を意味します。独り暮らしで会話のなかった生活に活気を取り戻した人がいます。仲間がいることが励みになり、病を克服した人もいます。また、経済的理由で心ゆくまで勉学に打ち込むことができなかった学生時代のやり直しを楽しんでいるという人もいます。

学び続けることで家族との会話も豊かに

受講生の平均年齢は、第2期には56・1歳でしたが、第10期では62・

生越さんは「受講生から『ホイスコーレ札幌のおかげで仲間ができました。こういう場をつくってくれてありがとう』と言われたことが一番嬉しいです」とホイスコーレ札幌を立ち上げ、継続してきた喜びを語ります。



生越名誉代表が自費出版した『ホイスコーレ札幌の軌跡』

自費出版した著者としての言葉を聞くことができます。



デンマークのヘルネスホイスコーレ留学中の生越名誉代表（左）



ヘルネスホイスコーレの授業風景



30 期記念で開かれた受講生による作品展

3 歳、第21期は72・5歳と徐々に上がっていきました。生越さんは「受講生の多くは高齢者になりますが、学ぼうとする意識は、いくつになっても人を成長させ、生きる力を育みます」と言います。社会人が自由に

学び続けられる場合は、高齢化社会だからこそ、より一層求められていると訴えます。

家族に「おばあちゃんの話は面白い」と言われていた受講生の一人が、家に帰ってホイスコーレ札幌で面白かった講義の内容や有名な先生の話をすると、「みんなが話を聞いてくれるようになった」と喜んでいました。

石塚さんは「例えば、ホイスコーレ札幌の講師として招いた絵本作家から紹介してもらった楽しい絵本を孫たちにプレゼントすることが、おばあちゃんの新しい役割になったりもします。新しい知識を得ることで子や孫とつながれることがあります」と指摘します。



石塚代表が講義後に発行する『ベルビュー』の数々

その一方で、ホイスコーレ札幌の楽しさを伝える難しさもあります。受講生が友人を誘っても「勉強するのなんて嫌」と敬遠する人もいます。

このため、石塚さんはホイスコーレ札幌通信『ベルビュー』を講義のたびに発行して、講義の内容や課外研修などについて情報共有しているほか、31期からはYouTubeチャンネルを開設するなど、外部への発信にも力を入れています。受講生を確保するという目的のほかにも、「これらを眺めながら家族や友人と語り合う時間ができれば」と期待を寄せます。

飽きさせない 取り組みを

同じ授業の繰り返しでは長年継続して通う受講生に飽きられてしまいます。石塚さんは「ホイスコーレ札幌を発展させるためにも、魅力的な要素を取り入れながら、刺激を与え続けなければなりません」と強調し、そのために課外授業なども活発に行っています。

このほか、受講生の一人が講義をしてくれたものの、後に続いて講師を務める受講生がいなかったそうです。石塚さんは、受講生自らもホイスコーレ札幌をより良くする活動に

取り組んでもらいたいと考えています。

そこで、2024年11月、第30期の記念展「スリアン」一緒に創ろう、私達の物語」を5日間にわたり、札幌市資料館ミニギャラリーで開きました。受講生で実行委員会を組織し、自分たちが手掛けた手芸、陶芸、絵画、版画、写真、書、川柳、生け花などを展示することで、表現することの楽しさと苦しみを味わいつつ、完成した作品を多くの来場者に観てもらおう喜びを分かち合いました。

記念展は、講義を受けるだけでは知ることができないお互いの個性や得意分野を知る機会になり、受講生には「いろいろな人と仲良くなることができました」と、スリアン（フランス語で笑顔の意味）の輪が広がりました。

石塚さんは「来年には、歌や踊り、劇などを発表する学芸会みたいなものを企画したいですね。学校祭のように、家族や友人を招待して受講生たちが輝く場をつくりたい」という構想を温めています。

お問い合わせ先

ホイスコーレ札幌 石塚耕一
011-884-5016
電子メール jaspernoise@gmail.com
HPアドレス https://manabonoxblog.jp/
https://hojskole.jugem.jp/

ブック・ストーリーーズ
本づくりの
さきに
あること
——。

キャリア50年を超える 北海道における装丁家の 草分け的存在

【装丁家】

須田

照生

さん

装丁家の仕事について語る須田照生さん

一冊の本が完成するまでには、著者や編集者の他に組版、印刷、製本の技術者など、さまざまな人の手を介しています。本の内容に合わせてカバーや表紙、本文の組体裁など意匠部分の作業を「装丁」と言います。表紙など本の仕上がりは人々の目を惹きつけ、売れ行きをも左右しますが、その作業は読者の目に触れることはありません。札幌を拠点に50年以上にわたり装丁家として活躍する須田照生さんに、装丁の魅力や仕事に対する思いを聞きました。

(文・写真／片山健一 取材日2025年9月11日)

地味だが 長く形に残る仕事

——装丁家の仕事について教えてください。

表紙やカバーなどの本の外観をデザインするほか、本によっては、本文のレイアウトも任されます。本文の各ページの字数や行数、フォント（書体）、写真や図表の配置などを決めます。

例えば昆虫の図鑑類だと、図や写真を実物大にして千枚単位で複写し、切り貼りしてレイアウトしていきます。本によっては数年がかりになる場合もあります。

文字や図版の位置、大きさ、色などさまざまな指示を細かく書き込んだ「指示書」という本の設計図を作って印刷会社に渡し、刷り上がってくるたびに校正を行います。

書籍ごとに設定する細かな約束事で不整合な点が出てくると、一から見直すことになるので、寝食を忘れて区切りが付くまで一気に仕上げる場合もあります。だから生活は不規則です。火事現場に直面した消防士と同じで、「午後5時だから今日はもう止めよう」とはいきません。

グラフィックデザイナーの仲間には「地味な仕事だね」とよく冷やかされました。でも、完成した時の達成感は格別ですし、書籍が長い期

間、形として残ることも喜びです。基本的に一人でやる仕事なので、締め切りまで余裕がある時は、本を読んだり、酒を飲んだり、のんびりします。

本のデザインの専門団体で、1985年から活動する（一社）日本図書設計家協会に所属しています。が、「図書設計家」というと、図書館の設計をしている人たちと勘違いされることがよくあります。また、2007年には全国に225人の会員がいましたが、2025年には109人に減っています。道内の会員は私を含め2人だけです。

本を読む人が少なくなれば、装丁家を志す若者も少なくなります。デザイナー志望の若い人に装丁の話をしても反応は今一つで、むしろゲームのグラフィックデザインの方に興味があるようです。



本に囲まれた須田さんの仕事場



1970年代に須田さんがデザインした書籍

私も来年で80歳になります。専門のブックデザイナーはもはや絶滅危惧種です。

さまざまなアイデアを詰め込み一冊に

——仕事の進め方、これまで手掛けてきた本にはどのようなものがありますか。

装丁の注文は著者から指名されることもあります。編集者から来ることが一般的です。気心の知れた編集者との一对一の打ち合わせがほとんどで、あうんの呼吸で込み入った話にならなくて気楽です。

まず、原稿を読んで、本文の組み方をどうするかを考えてページ数を固め、紙の素材、製本方法を決めて、「束見本^{つかみほん}」を作ります。束見本によって、実際の紙の色や厚さ、重さが分かり、著者や編集者とイメージを共有する役割も果たします。厚く硬い表紙が付く上製本だと表紙やカバーのサイズも正確に分かるので、それから表紙などのデザインを



表紙（左）と収納ケース（右）に“遊び”を施した北海道放送の50年史

考えます。表紙の収まりを考えてタイトルの変更を提案することもあります。

表紙まわりは「遊び」が施せる部分です。北海道放送の社史では、収納ケースにテレビ画面のような形の穴を空けて、表紙の写真が画面に映っているように見える仕掛けを考えるなど、さまざまなアイデアを形にしてきました。故人となった奥様の着物を表紙に用いた特装版を作ること

を提案した際には、完成品を手にした著者が非常に喜んでくれました。

江別市の市政40年を記念して

本好きの少年が装丁家に

——装丁の仕事をするようになった経緯を聞かせてください。

1995年に発刊した『えべつ昭和史^{えべつしょうわし}』は、翌年の第30回造本装幀コンクールで北海道から初めて入賞し、毎年2月にドイツ・ライプツヒで開催されている「世界で最も美しい本コンクール」に出品されました。



故人の着物を表紙に使っている特装版（右）と一般版（左）。表紙を凹ました部分に別紙に本のタイトルを印刷した題籤（だいせん）を貼るなど趣向を凝らした装丁



1963年から開催されているブックデザインの国際コンクール「世界で最も美しい本コンクール」に出品された『えべつ昭和史』も須田さんによる装丁

『牧野日本植物図鑑』があり、子どもの頃はよく眺めていました。学校の先生の家に遊びに行くと、書斎の本棚に本がぎっしりと詰まっているのを見て憧れていました。今でも週に2回は書店に行きますが、珍しい本や面白そうな本があるという欲しくなります。だから、この事務所だけでなく、自宅も本だらけです。「全部読んだのかって？」よく聞かれますね。

高校卒業まで羽幌町^{はぼろ}で過ごし、勉強していた油彩画を続け、仕事にできたらと思い上京しましたが、食べていけないわけもなく、新聞の求人広告にあった外資系化粧品会社の入社試験を受け、宣伝部に配属になりま



須田さんが束見本に書き込んだ表紙案（右）とその完成版（左）。束見本の下には指示書が見える

した。ポスターやリーフレットの製作を担当し、約2年勤めたものの、都会暮らしと、会議の多い会社勤めが性に合わず退職し、なんの当てもなく北海道に戻ってきました。

装丁の仕事に興味を持っていたものの、当時は北海道に出版社がないため、本作りの仕事はほとんどありません。月刊雑誌で、大きな見出し文字を手書きするレタリングのアルバイトで食いつなぎながら、初め

てブックデザインを手掛けたのは1974年、27歳の時でした。

北海道大学に勤める知人を通じて紹介してもらった学術書の造本で実績を重ね、北海道新聞社とも一緒に仕事をしていくようになり、道内に亜細亜社、北海道出版企画センター、共同文化社、寿郎社などの出版社ができて、装丁の仕事が軌道に乗っていきました。

できるだけ自由であるために

——一切コンピュータを使わないそうです。

現代のブックデザインは、パソコン上の作業で完結することが主流になり、全てデータでのやり取りが条件という仕事が多いのですが、そういう依頼は全て断っています。

デザイナーという仕事は機械に使用されるのではなくて、できるだけ自由な状態であるべきです。

高額なコンピュータやプリンタなどさまざまな機材を導入すればするほど、稼働率を上げなければならなくなり、効率ばかりに思考が向いていくようになります。減価償却に追われ、仕事を数多くこなすことよりも、美術館や映画館、書店などでインプットを増やすべきです。

アニメーターの宮崎駿さんもアナログ派で「便利が尊いと思う人間は、それにすぎればいいんです。私は全く興味ありません」と言っていたそうですが、私も全く同感です。

作り手と読み手の立場で考える

——長年装丁に携わってきて感じていることは。

「本は著者のものではない」が持論です。本づくりは映画製作に似ていると思っていて、多くのスタッフの力が必要です。原作から映画にすることを「映画化」と言うように、原稿を一冊にまとめることを私は「本化」と呼んでいます。映画は原作者のものではないように、「本化」して市場に出れば、著者の手から離れます。

著者によっては、本は自分のものだと考え、パソコンで組版のイメージを作成し「この通りに作って欲しい」と注文される方もいます。ただ、本作りには図表の位置などに禁則があり、それを無視すると読みづらい本になります。高齢の読者向けに「文字を大きくして」というリクエストがあつたとしても、大きすぎれば逆に読みにくくなってしまいます。

私たちは作り手側、読み手側の双



本の仕上がりを確認する須田さん

方の立場からトータルに考えて本を作ります。出版経験が豊富なベテランの著者ほど、何も言わずにプロに任せることが多いです。

本も、映画のエンドロールのように、巻末に制作に携わった全員の名前を入れるようになったらいいなと思っています。発行者や編集人だけでなく、組版のオペレーター、印刷会社の制作に関係する方々も入れるようになれば、彼らの仕事として残るし、責任感も強くなると思います。

多くの人たちが携わり苦労して作った本は、ぜひ本棚に入れてほしい。工芸品のように大事に扱ってもらえればうれしいですね。

ほっかいどうの本

このコーナーは北海道の出版社から発行された本を社員が読み紹介しております。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です。

お隣の非正規公務員 地域を変える、北海道から変える

978-4-86721-166-6

川村 雅則 編著
A5判 172頁 1540円
北海道新聞社 発行
011・210・5744



役所内の事務職、福祉や医療職、学校の先生、図書館職員など私たちの暮らしに欠かすことのできない様々な場面で働く多くの方が、非正規公務員として不安定な雇用や低賃金といった厳しい状況に置かれています。

本書は、今や会計年度任用職員だけで全国100万人に迫る実情に対し、いかに法の狭間に置かれ不条理な状況で働いているのか、非正規問題について研究者、労働組合、自治体議員、弁護士、新聞記者が多角的な視点で解説しています。公務員と聞くと「安定」というイメージが強いかもしれませんが、データや具体的な事例を交え、非正規化が進んだ背景や、その解決に向けた道筋を提示しています。単なる問題提起にとどまらず、私たちがこの社会をどう変えていくか、そのヒントを与えてくれます。

地域の公共サービスを支える「お隣さん」の姿を知ることは、私たちの社会をより良くしていくための第一歩となるでしょう。地域社会のあり方を考えるすべての人に読んでほしいと思います。

(製本一部 清水隆実)

クリル・フロラダイアリー 千島列島植物探訪記

978-4-906740-09-7

高橋 英樹 著
A5判 154頁 2200円
亜細亜社 発行
011・221・5396



千島列島と聞くと政治的な問題を連想しがちですが、北海道からカムチャッカ半島へ続くこの島々は、生物地理学上の境界に位置し、独自の生態系を持つ生物多様性の宝庫でもあります。

本書は、1995～97年、2000年に行われた日米口の共同プロジェクト「国際千島列島調査（I-KIP）」に参加した著者である高橋英樹先生（現 北海道大学名誉教授）の日記を基に構成されています。

無人島での130日余りにおよぶ調査の様子が、普段では見ることの難しい風景写真と共に綴られている一方、政治的な理由による上陸制限、ロシア国境警備隊の存在、旧日本軍の遺構、そして戦前に持ち込まれた生物が外来種として根付いている現実など、二国間の過去から現在に至る複雑な関係性にも触れています。

しかし、そうした背景とは対照的に、国籍を越えて研究者たちが協力し合う様子が印象的で、巻末には著者が上陸した24の島々の詳細な植生データも掲載されており、学術的に貴重な一冊となっています。

(北海道営業部 土田和史)

整形外科医はなぜ野球場を 買ったのか

978-4-8739-427-1

岡村 健司 著
四六判 240頁 1320円
共同文化社 発行
011・251・8078



高校時代に肩の故障によって野球の夢を絶たれた著者は、大学に進学するも文系から理系へと紆余曲折を経ながら整形外科医の道を目指しました。本書には幼少期の思い出から現在に至るまでの人生が描かれています。

約30年前、日本では肩の手術で関節鏡を使う医師がごくわずかだった時代に、著者はゼロから学び、その後、肩関節鏡手術の第一人者として先進的な医療を広めてきました。

患者第一を徹底し、単に治療を行うだけではなく、若手医師の育成やチーム医療の推進、研修施設の整備など、医療界全体の未来を見据えた活動が非常に印象的です。

本書のタイトルにもなった地元の野球場「札幌スタジアム」を2015年に自費で購入。ナイター設備の導入と老朽施設を改修し翌年4月に地域に開放した行動は、医師の枠を超えた社会貢献の象徴として心に残ります。財産はできる限り社会に還元したい、と考えている著者の人生観や価値観は、多くの方に深い示唆を与えてくれる内容となっています。

(システム部 高橋孝輔)

新刊情報

書名の下に数字は日本図書コード（ISBN）及び雑誌コード。特記以外は税込価格。
お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

白鳥北国の風景をつくった使者たち

竹田津 実 著
A5判 232頁 2750円
978-4-86721-04-9

北海道 投げ釣りガイド 日本海編

横山 秀規 監修／
北海道新聞HotMedia・
週刊釣り新聞はっかいどう 編
B5判 256頁 2970円
978-4-86721-67-0

Earth Drop 北海道のオサムシ図鑑

高橋 怜央・堀 繁久 共著
A4変型判 128頁 3520円
978-4-86721-06-3

RUST RUN!!!

著・占冠 愁／絵・始発ちゃん
四六判 272頁 1430円
978-4-86721-08-7

わたしの百人の祖父母たち 北方領土・元島民の肖像

山田 淳子 写真・文
A5判 192頁 2750円
978-4-86721-09-4

増補改訂版

北海道大学病院のおいしい健康ごはん

北海道大学病院栄養管理部 著
B5判 96頁 1760円
978-4-86721-70-0

道新プラス 道新受験情報2026 高校入試合格データ特集

北海道新聞社 編
B5判 236頁 990円
16747-08

北海道新聞社

〒0871 札幌市中央区大通東4-1
011・210・5744

図説世界のコムラサキ

増井 暁夫 著
A4判 376頁 44000円
978-4-8329-824-0

北海道大学大学院教育学研究院研究叢書3
教育格差は正政策の日に比較
教員確保・学校存続・教育機会保障

横井 敏郎・巖 平・
潘 昆峰・張 揚 編著
A5判 264頁 6930円
978-4-8329-8807-0

北海道大学出版会

〒0809 札幌市北区北9条西8丁目
011・747・23008

クリル・フロラダイアリー 千島列島植物探訪記

高橋 英樹 著
A5判 154頁 2200円
978-4-906740-89-7

句集

望峰 戸田 幸四郎 著
四六判 212頁 2200円
978-4-906740-70-3

亜璃西社

〒0837 札幌市中央区南2条西5丁目
011・221・5396

おうちでヤミツキ！ ミャンマー料理

ヤミンテ 監修
A5判 48頁 2200円
978-4-909281-72-2

青い記念碑 教えるとは希望を語ること

森山 弘毅 著
四六判 108頁 2200円
978-4-909281-71-5

寿郎社

〒0807 札幌市北区北7条西2丁目
011・708・8565

日本列島アイヌ語地名ノート 1 青森県

神原 正文 著
A5判 346頁 2970円
978-4-8328-2504-8

日本で生まれた証もなくなった！ 「昭和の道産子」

西里 静彦 著
A5判 205頁 1980円
978-4-8328-2503-1

北の学徒出陣く戦没者の足跡く

島津 彰 著
A5判 320頁 2970円
978-4-8328-2505-5

北海道出版企画センター

〒0818 札幌市北区北18条西6丁目2-47
011・737・1755

サイエンスコミュニケーションの道具箱

北海道大学CoSTEP 編著
A5判 124頁 1980円
978-4-8739-428-8

整形外科医はなぜ野球場を買ったのか

岡村 健司 著
四六判 240頁 1320円
978-4-8739-427-1

藤倉英幸作品集 北を旅する人たちへ

藤倉 英幸 著
A4変型判 112頁 3410円
978-4-8739-425-7

内なる曠野―安部公房

柴橋 伴夫 著
A5判 316頁 2970円
978-4-8739-426-4

食と腸をめぐる18の章

岩永 敏彦・矢島 高二 著
新書判 124頁 880円
978-4-8739-429-5

成年後見法の道標2

―任意後見・任意代理・死後事務・家族信託―
三田 佳央 著
A5判 248頁 4620円
978-4-8739-430-1

爪句@日の出の記憶

青木 曲直 著
100ミリ×74ミリ 232頁 501円
978-4-8739-431-8

共同文化社

〒0803 札幌市中央区北3条東5丁目
011・251・8078

紙のば 表のとこ

錦秋の宴
金山 道子 木版画 53センチ×43センチ
札幌市営地下鉄の澄川駅から15分ほど歩くと西岡中央公園に着きます。
4万6800平方メートルの敷地の60%が原生林で、白樺、落葉松、ミズナラ、エンジュなどがあり、夏は強い陽射しを遮つてくれ、秋には歩くとき落ち葉の音がカサコソと心地良く、四季を通じて様々な楽しみをもたらしてくれます。
住宅街の近くに広がる原生林で、希有な場所となっています。

GEM木版画会 会員 札幌市在住



※季刊アイワードのバックナンバーを
弊社ホームページよりご覧いただけます。
URL <https://iword.co.jp>